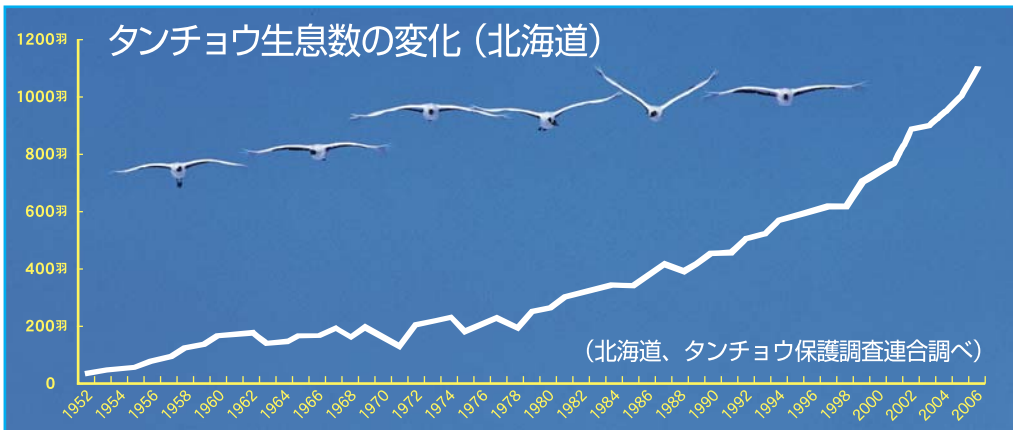


釧路湿原 セミナー 第15回

北海道のタンチョウ 千羽鶴になったけど...

2005年1月の調査で、北海道のタンチョウは1000羽を超えました。一時は絶滅したと思われるくらい数を減らし、1952年（昭和27年）の初めての一回調査では33羽しか見つからなかったタンチョウは、驚異的に数を回復しました。

ここに来るまでには地元の人々の長年にわたる努力がありました。



タンチョウとの共存

近年、人里ちかくにタンチョウが増え、新たな問題も引き起こしています。作付けしたばかりの畑に入って掘りかえしたり、牛舎まで来て窓ガラスを割ったり、牛の餌を横取りするタンチョウも現れています。これは、本来の生息場所が少なくなったことに加え、長年の保護によって、人を恐れなくなったためかもしれません。このようなことは、地元の人たちには迷惑なことですし、タンチョウも交通事故や電線衝突事故などにあう危険性が増えます。



タンチョウは給餌によって救われてきました。冬期の給餌はタンチョウのみならず他の野鳥たちにとっても厳しい季節を乗り切る助けとなります。ただ、過度に人馴れを起こすようなやり方や、事故や新たな問題を誘引するような給餌はタンチョウや地域の人たちに不幸な結果を招きます。



タンチョウは長年にわたり地元の人たちと道東の大自然に守られてきました。地元の人たちは大自然の脅威にさらされながらも、タンチョウと共に生きてきたのです。アイヌ語で「サルルンカムイ(湿原の神)」と呼ばれてきたタンチョウ。今、その湿原の神が、私たちの周りに舞い降りて、新たな共存を呼びかけてきています。私たちは、タンチョウおよびタンチョウに代表される自然との関わりを新たに作り出していくことが求められているのです。

【文責 松本文雄(釧路市教育委員会タンチョウ研究室)】



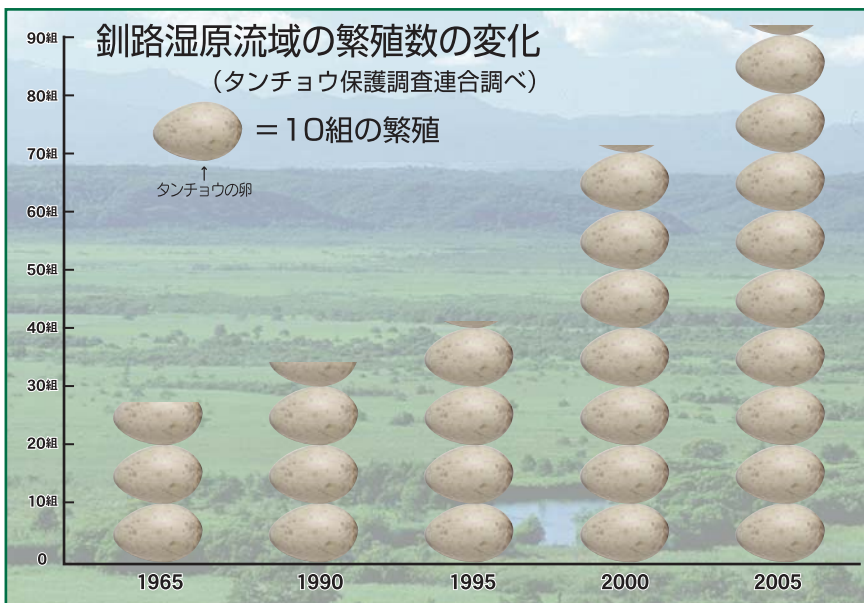
タンチョウの再発見～保護

タンチョウは1924年（大正13年）に釧路湿原で再発見されました。すぐに保護活動が始まり、冬季のエサ不足を助けるために、給餌も行われました。しかし、タンチョウが人を恐れていたこともあり、うまく餌付きません。ようやく1950年頃に阿寒町上阿寒や鶴居村下幌呂で初めて給餌に成功しました。大雪の日にエサ不足で人家の近くに現れたタンチョウに、自分たちの食べるものを与えたのです。その後も、食料にも苦勞する厳しい生活のなかで給餌を続けてきました。

このような地元の人たちの努力と、国や自治体などの積極的な保護策によって、タンチョウは劇的に増えてきました。しかし、まだ、日本に1,000羽、世界中でも2,500羽くらいしかいないと言われています（アジア大陸極東地域にもタンチョウはいます。日本と大陸のタンチョウは交流がなく、日本のタンチョウは渡りをせず周年、北海道にいます）。何か問題が起これば、ふたたび絶滅への道を進んでしまうかもしれません。



数が増えてきたけれど...



数は増えてきましたが、主要な生息地である湿原はいまだに減っています。そのため、限られた湿地に多くのタンチョウが入るようになり、混みあってきました。そのうちに繁殖できる場所がなくなり、数が増えなくなるかもしれません。最近では、新天地を求めて網走地方や、道北のサロベツ原野で繁殖するつがいも出てきました。このように新たな環境を探して、広がってくるとよいのですが、釧路湿原のような広大で良好な湿地はなかなかありません。



釧路湿原の誘い ～施設紹介～

阿寒国際ツルセンター

阿寒国際ツルセンターは人工給餌発祥の地である阿寒町上阿寒にあり、冬期(11月～3月)は別館のタンチョウ観察センターにて、給餌場に飛来する野生のタンチョウを見ることが出来ます。本館では、飼育しているタンチョウを見られます。また、タンチョウに関するあらゆる情報が集められていますので、タンチョウについて学ぶには最適な施設です。ご希望のかたには、無料で解説も行っております。是非ご利用ください。おみやげコーナーも充実しています。

INFORMATION

開館期間：通年(タンチョウ観察センターは11～3月のみ)
 開館時間：9:00～17:00
 入館料：大人400円 小人200円
 〒085-0245 釧路市阿寒町23線40番
 TEL 0154-66-4011 FAX 0154-66-4022
 ホームページ：http://www3.ocn.ne.jp/~aicc